# 達人の旅指南

第104回

フリーライター 加藤隆悦

# たざわの湯

仙北市

16

### 秋田県

右/奥羽山脈を越え る秋田新幹線

左/田沢湖駅前には リゾート地ならではの 華やかさがある







\*花、と名付けられたツインベッドの和室

畳から16畳の和室。そして2室が高客室は上質感あふれる。13室が14 角部屋もチョイスできる。 を正面に眺められるレイクビュー 社製のツインベッドが並ぶ和洋室タ 級ベッドの代名詞でもあるシモンズ 駒ケ岳を望むマウントビュー イプ。さらには、リクエストをすれば か、湖面

感覚的には、高級料亭で料理長の

むきがある。総料理長が自ら栽培し

おまかせ料理をいただくようなおも 食のもてなしだ。

レイクビューの角部屋からは田沢湖と 沈む夕日を眺められる

上/各客室には専用のダイニングルー ムが付き、ゆっくりごちそうを楽しめる 下/和洋室の、粋、はマウントビューの 角部屋。窓からは駒ケ岳が間近に見ら れる。景色を楽しみたければ角部屋が

おすすめだ

# 優雅な記念日旅行に

予約が取りやすい時期に自分の目 訪れるのか、それを探るべく、冬場の と舌で確かめてみたいものである。 そして何よりも一番の楽しみは、

17

生した。近隣に種馬場があり、鉄道 心亭しらはま」の前身となる宿が誕

えるであろうことを見越しての創業 の開通で商人など人々の往来が増

しらはまは田沢湖畔に建つ 5階建ての堂々たる建物

「しらはま」は田沢湖畔の春山地

線」に改称、全線開通となったのは

きた区間と一本につながり「田沢湖 の後、盛岡側から建設が進められて

66(昭和41)年のことである。

生保内線が開通した翌年に、「花

畳敷きのロビーに朝日が差し込む

を運ぶリピーターが続出だ。

なぜ都会からはるばる繰り返し

が多いという。しかも、年に何度も足 今でも圧倒的に首都圏からのお客 る。そのもてなしの心が伝わるのか、 腐心する経営スタイルが際立ってい

ま」は遠来のお客をもてなすことに

宿の誕生の経緯もあり、「しらは

間で「生保内線」として全通した。そ 12)年に大曲―生保内(現田沢湖) 田新幹線こまちも走るJR田沢湖

盛岡間)。1923(大正

本県と岩手県を17駅で結び、秋

ロビー照明の秋田蕗のシェード

000(平成12)年には館内を大き としての風格と気品を漂わせる。2 れているが、田沢湖随一の老舗旅館 区に建つ。8(同3)年に建て替えら

は当館のオリジナル

用ダイニングを設け、ぜいたくな造り

くリニューアル。15室全ての客室に専

となっている。

都会人もリピーターに





朝食も豪勢

で楽しい

しみたい。

族と、ゆっ

たり

としたバスタイムを楽

■丁寧につくられた前菜と通し 2珍味は 柿の白和え 3秋田錦牛陶版焼きと蒸雲 丹 4 比内地鶏入り山の芋鍋 5 お造りと お椀 6鰰柚庵焼きとサザエ蕪蒸美味餡

ピ も、誕生日や結婚記念

自慢の料理で対応しているという。 温泉は無色透明無臭のナト あることだ。夫婦や恋人、親子 わらかい湯、という印象だ。

車の運転ができない

人、または雪

冬の湖畔

巡

りを楽

む

なずける。近場からで た都会からのお客がリ ダイニングルームのテー ルに並ぶ。舌の肥え もかけた味の逸品が になるのもう

山海の恵みをふんだ



18

宿の対岸にある辰子像。 冬の風情もなかなかいい

日などのお祝いにぜひ利用したい も利用料も不要の貸切家族風呂 の。また、年祝いや法事などにも また入浴に介助が必要な家 塩化物泉で、刺激の少ない 。また、特長的なのは、予約 とした湯上がり感が味

送迎している(要事前予約)。

だろうか。田沢湖駅から宿まで無料 幹線こまちで出掛けてみてはいかが 道の運転に不安がある人は、秋田新

を利用して、宿をチェックアウト

周する定期路線バスがある。これ

また、田沢湖駅発着で田沢湖畔

を

子像前と御座の石神社前でそれぞ

という方法も考えられる。途中の

辰

れ20分、10分停車する。下車して記

湖畔を巡ってから田沢湖駅に向かう 後、最寄りの停留所からバスに乗り、



〒014-1204 仙北市田沢湖田沢字春山145

TEL.0187-43-0436 FAX.0187-43-3822



貸切家族風呂(予 約不要)。休憩でき る小上がりもある



バーカウンターでコーヒーや地ビールを

無料で利用できる

ちょっとし 沢 八湖駅着 合、 12 田 た

(文・写真=かとう・りゅうえつ= =秋田市)

湖畔発10時57分、田 辺観光も楽しめる。この場 念写真を撮るなど、 分の便がおすすめだ。 時 沢 周

19